

乳腺科 臨床研修到達目標（必修）

1. 特徴

豊富な経験とエビデンスに基づく、親切な治療。
充実した設備・スタッフとの緊密な連携体制。
近隣施設との緊密な医療連携。

2. ねらい

乳腺科は最近、とくに増加し、女性の罹患する最も多い癌である乳癌の治療を主たる目的として設立されました。乳癌は、現在でも、手術を重要な治療手段と位置づけていますので、外科系診療科に属していますが、放射線療法、化学療法、ホルモン療法を駆使し、集学的な治療ができる疾患であり、臨床腫瘍学の知識が必要とされます。乳腺疾患における診断と治療に必要な基本的な知識と技能を身につけ、それを実践できるようにすることを目標としますが、そのことはすなわち臨床腫瘍学の基礎的な知識と技量を身につける事にもつながると考えています。

3. 一般目標

1) 診断

- (1) 正常乳腺の解剖を理解できる。
- (2) 乳房の視触診を正しく行い、所見をとることができる。
- (3) マンモグラフィ、乳腺超音波検査を必要に応じて指示し読影する事ができる。
- (4) 乳腺 MRI 検査を指示し、施行読影できる。
- (5) リンフォシンチグラフィの検査、指示ができる。
- (6) 乳房針生検の基礎的手技を理解できる。
- (7) 乳癌の細胞診の基礎が理解できる。
- (8) 乳腺病理の基礎が理解できる。

2) 処置

- (1) 化学療法患者に対する CV ポート挿入法を習得する。
- (2) 乳腺手術後の創処置法を習得する。

3) 治療

- (1) 乳癌における各種検査結果を総合的に判断し治療法・術式を選択できる。
- (2) 乳腺手術時の皮切、閉創ができる。
- (3) 乳腺針生検の基本的な手技ができる。
- (4) 乳癌の手術の基礎的知識を習得する。
- (5) 乳癌術後管理の基礎的知識を習得し実践できる。
- (6) 患者の QOL に応じた正しい治療法を選択できる。
- (7) 化学療法剤の種類と使用方法を習得する。
- (8) ホルモン剤の種類と使用方法を習得する。
- (9) 末期癌患者の全身管理を習得する。

4. 研修方略

研修医一人に対し、全指導医が全般に渡る研修指導にあたる。

病棟患者は主治医制ではなく乳腺科医師全員で診療する、チーム制であるのでチームの一員としてすべての患者の診察、治療にあたる。

症例検討会での症例呈示により全症例に対する理解を深め、知識を養う。

検査としては乳腺細胞診、乳腺針生検、マンモトーム生検を学ぶ。

治療としては手術に参加し、標準的術式を学ぶ。

また、非手術適応例、術前、術後化学療法への適応を学ぶ。

再発、末期症例に関しては、標準的な緩和医療の基本を学び、実践する。

勉強会として月1回の乳腺カンファレンスで、画像診断、病理に対する理解を深める。

5. 週間スケジュール

科	月	火	水	木	金	土
乳腺科	外来 手術	外来 病棟	外来 化学療法 病棟	外来 病棟	外来	病棟
	手術 抄読会 乳腺カンファレンス	外来 病棟 症例検討会		病棟	病棟	

6. 研修評価

1) 自己評価：PG-EPOC を用いて自己評価を行う

(症候、疾病・病態の経験については PG-EPOC にて確認を行う)

2) 指導医による評価：PG-EPOC を用いて研修医を評価する

(症候、疾病・病態の経験については PG-EPOC にて確認を行う)

3) 研修医による研修体制評価：PG-EPOC を用いて診療科全体（指導内容、研修環境）を評価する

7. 指導体制

指導責任者 山田 公人

指導医 宮原 かな

乳腺科 臨床研修到達目標（選択）

1. 特徴

豊富な経験とエビデンスに基づく、親切な治療。
充実した設備・スタッフとの緊密な連携体制。
近隣施設との緊密な医療連携。

2. ねらい

乳腺科は最近、とくに増加し、女性の罹患する最も多い癌である乳癌の治療を主たる目的として設立されました。乳癌は、現在でも、手術を重要な治療手段と位置づけていますので、外科系診療科に属していますが、放射線療法、化学療法、ホルモン療法を駆使し、集学的な治療ができる疾患であり、臨床腫瘍学の知識が必要とされます。乳腺疾患における診断と治療に必要な基本的な知識と技能を身につけ、それを実践できるようにすることを目標としますが、そのことはすなわち臨床腫瘍学の基礎的な知識と技量を身につける事にもつながると考えています。

*選択では、必修よりもより広く深く臨床研修ができるように考えています。

3. 一般目標

1) 診断

- (1) 正常乳腺の解剖を理解できる。
- (2) 乳房の視触診を正しく行い、所見をとることができる。
- (3) マンモグラフィ、乳腺超音波検査を必要に応じて指示し読影する事ができる。
- (4) 乳腺 MRI 検査を指示し、施行読影できる。
- (5) リンフォシンチグラフィの検査、指示ができる。
- (6) 乳房針生検の基礎的手技を理解できる。
- (7) 乳癌の細胞診の基礎が理解できる。
- (8) 乳腺病理の基礎が理解できる。

2) 処置

- (1) 化学療法患者に対する CV ポート挿入法を習得する。
- (2) 乳腺手術後の創処置法を習得する。

3) 治療

- (1) 乳癌における各種検査結果を総合的に判断し治療法・術式を選択できる。
- (2) 乳腺手術時の皮切、閉創ができる。
- (3) 乳腺針生検の基本的な手技ができる。
- (4) 乳癌の手術の基礎的知識を習得する。
- (5) 乳癌術後管理の基礎的知識を習得し実践できる。
- (6) 患者の QOL に応じた正しい治療法を選択できる。
- (7) 化学療法剤の種類と使用方法を習得する。
- (8) ホルモン剤の種類と使用方法を習得する。

(9) 末期癌患者の全身管理を習得する。

4. 研修方略

研修医一人に対し、全指導医が全般に渡る研修指導にあたる。

病棟患者は主治医制ではなく乳腺科医師全員で診療する、チーム制であるのでチームの一員としてすべての患者の診察、治療にあたる。

症例検討会での症例呈示により全症例に対する理解を深め、知識を養う。

検査としては乳腺細胞診、乳腺針生検、マンモトーム生検を学ぶ。

治療としては手術に参加し、標準的術式を学ぶ。

また、非手術適応例、術前、術後後化学療法の適応を学ぶ。

再発、末期症例に関しては、標準的な緩和医療の基本を学び、実践する。

勉強会として月1回の乳腺カンファレンスで、画像診断、病理に対する理解を深める。

*機会があれば、乳癌学会で症例発表をする。

※週間スケジュール・研修評価・指導体制は必修と同様